

# 祐善寺だより

第45号

発行日

2020年10月10日

真宗大谷派 祐善寺 住職/岡崎 賢 福井県丹生郡越前町上糸生20-2 TEL 0778-34-5170 FAX 0778-34-5170

新型コロナウイルス感染拡大防止に最大限配慮して

## 報恩講を厳修します！

記

今年冬より全世界を震撼させている新型コロナウイルスの感染拡大により、様々な行事等が次々と中止、延期となる中で、今年の当寺の報恩講の厳修の可否について、近隣の寺院や福井教区内の諸寺院の動向等を勘案し、九月二十二日に開催された役員会で協議を行いました。

第二波の感染状況も少し落ち着いてきている状況もあり、近隣の寺院での報恩講のお勤め方は、一座のみのお勤めや内勤め（自坊の住職・寺族等のみでお勤めする）が大半であることから、当寺として下記の要領で今年の報恩講を厳修させていただくことになりました。

どうか、事情をご賢察頂きましてご参詣下さいますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



- ・一座（速夜II午後二時始まり）のみのお勤めとする
- ・お斎は用意しない
- ・今年の報恩講は、地区当番制によらず、準備等を役員と門徒有志で行う準備等、一部省略して行う
- ・最大限コロナ感染防止対策（左記参照）を施してお勤めする

### 報恩講における感染拡大防止対策

- ① 本堂入口、庫裡玄関、トイレ入口に手指消毒スプレー、マスク、除菌ティッシュ等を用意する
  - ② 本堂参詣者イスの間隔を広くする
  - ③ 本堂内の換気に配慮する
  - ④ 原則的にマスクを着用する
  - ⑤ トイレ等は、綿タオルを使用せず、ペーパータオルを使用する
  - ⑥ 一座のみのお勤めでもあり、お斎は用意しない
  - ⑦ 法要の所要時間も、可能な限り短縮するよう工夫する
- 以上

ご参詣下さい

ご案内

### 報恩講

十一月二日(月)午後二時

(三時頃終了予定)

法話 南居 陽願寺住職

出雲路善公師

今年の当寺の報恩講は、コロナ禍の中にあつて、従来の形式を変更して右記の通り一座のみ厳修いたしましたので、ご家族、ご法友をお誘いあわせの上、ご参詣下さいますよう、ご案内申し上げます。

合掌

# 投稿パーティ

大村市 島 信行

暑中お見舞い申し上げます  
新型コロナウイルスの影響で地域のすべての行事が中止に追い込まれ、寂しい夏を迎えています。

加えて長雨・豪雨により農家を中心に大変な被害に見舞われ本当にお気の毒になります。

そうした中、お変わりなくお過ごしのこととお喜び申し上げます。また、この度は『祐善寺だより』第44号をお送りいただき有難うございました。石段修復が見事に完成されましたこと、お喜びを申し上げます。私達子供の頃は、この石段でスキーを楽しみました。

間もなく梅雨が明け、猛暑の時期を迎えますが、何卒お身体に気を付けてられてお過ごしください。  
令和二年七月

西田中 上野 みよ子

コロナ感染情報、パソコン、スマホ、キャッシュレス、ペイペイ、オンライン授業……。

高齢者には読み辛いわからないこといっぱい。でも、感謝感謝、有難いこといっぱい。

いつもお世話を頂いている祐善寺

様の檀家であること。何かとお心配り頂き、お世話様になり本当に有難いことです。御任職はじめ 坊守様若任職のお心配り、感謝のほかありません。ご多忙の中、『任職通信』などなど有難く、祐善寺様の檀家である誇らしさ。『祐善寺だより』44号の野村軍一先生のお言葉、ホントホント有難いことです。

野村軍一先生にお礼を一言。何時も有難うございます。いつもご投稿下さる「花だより」。ホッコリ心の温まる一時です。この紙面をお借りして重ねて深く感謝申し上げます。

御任職、檀家の皆様のご健康をお祈り致します。  
令和二年九月

福井市 三ツ谷 順子

『祐善寺だより』拝見いたしました。四季折々のお花の写真は楽しみです。観光地みたいですね。

毎日暑さとコロナに半ウツ状態です。

コロナもやや落ち着いたかと思っております。最近の感染者の多いのにはショックを受けております。それも、昼カラが源とか。分別もあるはずの老人が最も危険なことをするのにはびっくり。呆れるばかり。

いつまでこんな生活が続くのか、予測する事も出来ず、不安です。

暑さは未だ続きそうです。コロナ

も…。  
どうか皆様、お身体に気を付けて下さい。  
令和二年九月



## 横目川柳

野村 明 良

善悪の 区別わからぬ お偉がた

(えらい人は、なんでもごまかそうとして)

えらい人 傍(そば)から見れば 只の人

(えらい人は、やれる人、やる人です)

大臣は 誰でもなれる 字が読めりゃ

(大臣は、事務方の書いた書類を読むだけです)

## 投稿・お便り募集

『祐善寺だより』が多くの方々によって支えられ、支持され、読み継がれていくことを願う、「投稿パーティ」が設けられています。

皆様からの「おたより」「花だより」「写真」と思いつく「俳句」「川柳」「旅行記」「読書感想文」「つづき」「政治へひとこと」「お寺へひとこと」「コロナ禍に思う」等々、肩肘張らずに、気軽に投稿して下さいますよう、お待ちしております。

一冊の本  
上野千鶴子著  
『おひとりさまの最期』  
(朝日新聞出版)

岡崎 賢

東京大学教授でジエンダー研究の第一人者でもある上野千鶴子氏は、いわゆる「おひとりさま」ですが、本著は単身高齢者「おひとりさま」悲しすぎる孤独死等が深刻な社会問題となっていた中で出版された『おひとりさまの最期』の姉妹編です。

上野氏は、おひとりさまの最期を、どう生きるか?との視点で、いろいろな地域での取り組み等を見聞して一つの結論を出しました。

それは、おひとりさまであっても、「安心して」在宅ひとり死を迎えるには、「①24時間対応型の巡回訪問介護、②24時間対応の訪問看護、③24時間対応の訪問医療の多職種連携による3点セット、これさえあれば可能です。」と上野氏は述べたうえで、「ご自分の地域にはこれらのサービスが揃っているから」在宅ひとり死の達成です」と安堵しています。しかし、24時間対応型のこれらのサービスが整備されている地域は、ごく僅かというのが現状です。つまり、おひとりさまの最期には、依然として深刻な課題が残っていると云わねばなりません。

# 花だより



『彼岸花画手かざして』

阿波踊り 一軍



涼しい秋は来ないのかも…と案じるほど暑かった今年の夏でしたが、やはり季節は巡ります。稲刈りを終えた田圃の畦道には、彼岸花もポチポチと咲き始めました。

この花はマンジュシヤゲとも呼ばれますが、これは「天上の華」という意味の梵語です。梵語とは古いインドの言葉らしいから、お釈迦様はこの彼岸花に囲まれながら、俗世の私達が心安らかに暮らせるようにとお祈り下さっているのかも…。ナンマンドラツ、ナンマンドラツ…。

四十年前程のことだけど、八月に徳島市で数学担当教員の全国大会があつたので行きました。あの時は水が足りなくて、旅館の風呂は使えないのでシャワーで我慢しました。勉強が済んだ日の夜が丁度、徳島名物の阿波踊りの当日だったので。暑かつたけど楽しかつた…。

「あーらエライコツチャ、エライコツチャヨイヨイヨイ！」ってね。滑稽な身ぶり手ぶりで沢山の人が、町の大通りを練り歩いていました。男も女もお行儀良く、しかも滑稽に楽しくね。

彼岸花が蕊の全てを上にかざしている姿を見ると必ず思いつくのが、あの阿波踊りです。両手をかざしながら踊る姿と、彼岸花が蕊の全てを上にかざしている可愛い姿とが、私の頭の中ではカチンと一致するのであります。

## 自覚が行動に

上野 養治

自動車への「もみじマーク」をどくなったら貼ろうかな…と時々思うようになりました。

道路交通法では罰則は無いようですが、七十歳以上は身体の機能低下で運転に影響を及ぼすとき、更に七十五歳以上は全ての運転者が表示することが求められているようです。

私も六十五歳になって高齢者の仲間入りとなりましたが、気持ちは若い時のままです。でも、ふと気がつくところの後ろの感覚が取れなかつたり、視野が狭く感じたり、周囲への注意が抜けたりしていることに気づきます。

先日、娘の義父が、用があつて、まだまだ元気な七十歳チョイ過ぎですが、軽トラックを運転して来ましたが、そして後ろのバッテリーを指さし「これ貼った」と恥ずかしさ半分の表情で言っていました。「これ貼つてあると安心なんやわ」。彼の運転に対する自覚が、シールを貼り事故を起こさないようにしたいとの気持ちがよくわかりました。

私も家族から言われる前に、早めにシールを貼ろうと思うのですが、まだまだ若い気持ちと身体能力低下のギャップが縮まるのに時間がかかるかも知れません。

## 令和2年度護持費の志納よろしくお願ひします

祐善寺を永代に亙つて護持していただくために、護持費をお願いしておりますが、今年も次のとおりご志納下さいますようお願いいたします。

### ◇護持費の使途

- ・報恩講の厳修費や教化事業の実施
- ・本堂を守る火災保険や環境維持費用
- ・本山相続講、福井教区賦課金等
- ・その他

### ◇年額

一戸 一〇、〇〇〇円(以上)

### ◇志納方法

- ・寺へ直接志納する
- ・秋まわりや法事で住職が貴家を訪問の際に志納する
- ・地区の役員さんに志納する
- ・郵便振替口座  
(〇〇七七〇—九—三〇七二—)
- ・加入者＝祐善寺

### ◇志納期限

毎年十一月末日

へ振り込む

# 猛暑の中、 草刈り奉仕作業に汗!

上野 三千男

七月二十五日、祐善寺周辺の草刈り作業を実施しました。今年は、主に小倉・大城野地区の方と有志合わせて約二十名の参加を頂きました。

今年は、三月よりの終わりの見えないコロナの感染拡大、長雨の梅雨となり、例年になく連日の猛暑続きで、大変な作業日となりました。

大勢のご門徒様により、境内、参道、空き地、樹木の剪定と手際よく短時間での作業終了となりました。

毎年暑い時期での草刈り作業奉仕ですけれども、次世代に引き継ぐために祐善寺を大切に守っていききたいものです。

参加して頂いた皆さん、ありがとうございました。

最後に、越廼の小川さん、上田さん、毎年のサザエのつぼ焼き、ありがとうございました。



猛暑の中の草刈り・草むしり作業、汗が流れましたが、お寺周辺はきれいさっぱり!

## 年越し元旦参りのご案内

皆様、今年は、新型コロナウイルススに振り回された年でしたね。

大晦日にお寺で除夜の鐘をつきつつコロナ禍のこの一年を振り返り、年明けとともに、すがすがしい気持ちでご本尊に、ご挨拶しましょう!

★仏事で使用した不用品等を、ご持参下さい!

★午後十一時過ぎから点火される「かがり火」で焼却しましょう!

◇持ち込まれるもの  
葬儀等で使用した白木の位牌、古ろうそく、お経本、お祓いを受けたお札、一年のカレンダー等々

## おくやみ

上野アキノ様(越前町新庄)には、令和二年七月八日、行年九十三歳にて往生の素懐を遂げられました  
ご生前のご功勞に、心より深謝申し上げます。



野村勝弘様(福井市下荒井)には、令和二年八月一日、行年四十六歳にて往生の素懐を遂げられました  
ご生前のご功勞に、心より深謝申し上げます。

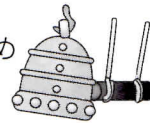


左記の日程で、年越し元旦参りをお勤めします。ご家族お誘いあわせの上、ご参加下さい。



### 日程

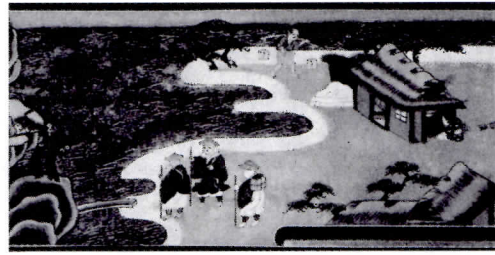
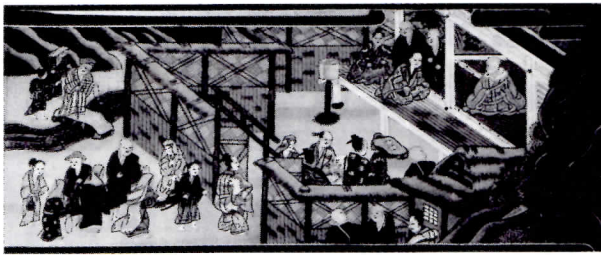
- ◆12月31日
  - 23:00 集合・かがり火準備
  - 23:20 かがり火点火
  - 23:30 除夜の鐘撞き始め
- ◆新年元旦
  - 00:00 正信偈お勤め
  - 00:20 お勤め終了「一年の計」表明
  - 00:30 解散



### かけがえのない ご先祖様の年忌法要 をお勤め下さい!

本年度の年忌は左記のとおりでございますので、貴家の過去帳等を御確認していただき、皆様にとられてかけがえのない御先祖様の年忌法要を是非、勤めて下さいますようお願いいたします。

- 五十回忌 昭和四十六年没
- 三十三回忌 昭和六十三年没
- 二十五回忌 平成八年没
- 十七回忌 平成十六年没
- 十三回忌 平成二十年没
- 七回忌 平成二十六年没
- 三回忌 平成三十年没
- 一周忌 平成三十一年・令和元年没



第十四回

親鸞聖人御絵伝

いなかこうぼう  
稲田興法



越後に流罪されてあしかけ五年も経った建暦元年（一一二一年）十一月十七日、「勅免の宣旨」によって流罪が許された親鸞聖人は、京都へ戻らずに越後に留まってお念仏の教えを広められたのです。

右図が越後での巡錫の道中の一風景で、真ん中に立っておられるのが親鸞聖人。左隣が西仏房、右隣が蓮位房。右端に立つ家は塩を焼く家。

その後、親鸞聖人は関東へ向かわれ、常陸の国（茨城県）稲田に草庵を結ばれたのです。ここが関東での御教化の拠点となった、と言っても過言ではないでしょう。親鸞聖人のみ教えは遠く東北にまで及び、聖人を慕って多くの人々が訪ねて来られて、草庵の周りには何時も大勢の人で溢れていたというのであります。

左図が稲田の草庵。右の奥に白っぽい衣姿の親鸞聖人。その前に描かれているのが西仏房、性信房。外には、聖人のみ教えを聞法せんと大勢の老若男女が集っている。

「親鸞聖人御絵伝」

浄土真宗の宗祖、親鸞聖人のご生涯を広く讃えんがために、親鸞の曾孫に当たる本願寺第三世覚如上人が親鸞聖人の求道の歩みを詞を著し、初稿本の絵は、親鸞聖人の直弟西仏房の孫、浄賀法眼に描かせています。

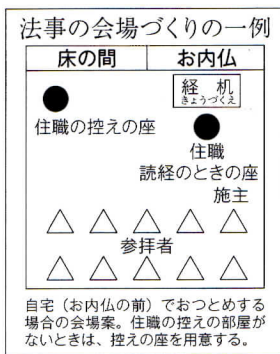
詞の部分を「御伝鈔」、絵の部分を「御絵伝」と呼び、各寺院の報恩講において御絵伝四幅を余間に奉掛し、厳肅に御伝鈔が拝読されます。（参考文献『親鸞聖人伝繪』『親鸞聖人御絵伝』）

其の41

仏事  
一口メモ

法事の準備

まずは会場づくりです。自宅でおつとめする場合は寺の本堂をお借りしておつとめする場合があります。その違いを十分理解しておく必要があります。自宅でおつとめする場合は、住職はもちろん親戚の方を招くことになるわけですが。家の清掃はもとより、家具類を動かすことも考えなければなりません。案内した人数に応じて茶碗や座布団なども用意しておきます。会場の一案を図に示しましたので参考にしてください。



とくに、お内仏（お仏壇）の荘厳（おかざり）を忘れずに行ってください。部屋全体がお内仏を中心とした仏間になるよう気を配りたいものです。

その諸準備について記します。

- ①お内仏の清掃とお仏具のおみがき。
  - ②打敷をかける。
  - ③お供物を供える。
  - ④お花を供える。
  - ⑤お仏供を供える。
  - ⑥床の間の掛け軸や額は、浄土真宗の教えが書かれたものが相応しい。それらがなければ、書や山水などの落ち着いたものにする。
- 寺の本堂をお借りして法事をおつとめする場合は自宅から出向くことになりますので、忘れ物のないよう気をつけたいものです。その留意点を記します。
- ①決められた時間に読経が始められるよう早めに参集する。
  - ②本堂でつとめる場合であっても、自宅のお内仏の清掃と荘厳（おかざり）は忘れない。
  - ③本堂にお供えするお供物やお花、あるいは墓参用の線香・お花の準備。
  - ④寺をお借りして行うお斎の場合は、人数なども知らせる。料理や引き出物などの手配も忘れない。
  - ⑤料理屋でのお斎の場合、会場までの車の手配。
- その他、寺をお借りするときの約束事がある場合もありますので、事前に確認しておくとういでしょう。
- 法事には、住職に差しあげる包みもの（御布施）も準備しなければなりません。
- 『仏事一口メモ』（東本願寺真宗会館より）

# お知らせ

## ボランティア募集!!

### 仏具磨き作業を

#### 行います!



日時 十月二十五日(日)

八時集合

持物 古タオル、軍手 等

例年、お寺の報恩講は、越前町内のご門徒の輪番での当番制によって厳修してきましたが、1面にも記させて頂きましたが、今年は一昨だけの厳修としたことから、地区当番制によらず、役員とご門徒有志の皆様のご協力でお勤めさせて頂きたいと存じます。

つきましては、報恩講を前にして、右の通り本堂の仏具磨き作業を実施しますので、ご協力下さいますよう、どうかよろしくお願い致します。

ご協力頂けます方は、前日までに寺までご連絡頂けますと有り難いです。

ご協力下さい!

## ボランティア募集!!

### 雪囲い作業奉仕

日時 十一月八日(日)

八時集合(午前中)

持物 鎌(カッター)、軍手、合羽(悪天時) 等

JAIイベント保険

加入します。

#### 作業内容

本堂、庫裡等の雪囲い作業をお願い致します。高所での作業が苦手な方は、下で雪囲いシートのヒモ結びや資材運び等の作業もありますので、ご都合のつく方は、是非ご協力をお願いします。

#### お願い

甚だお手数ながら、ご協力いただけます方は、保険に加入上、十一月五日(木)までに、地区担当役員、もしくは祐善寺へご連絡下さいますようお願いいたします。



## 【第一回】生活の中の仏教語

### 「畜生」

祐善寺若院 岡崎 優大

私たちは、日常生活を送る上で何か失敗をしたり、人間関係や様々な出来事において自分の思い通りにならないときや、他人から咎められることがあった時などに腹立ちまぎれに、「畜生」とか「こん畜生」と思わず愚痴を零す事があるかと思えます。

「畜生」という言葉は、悪いイメージで使われている言葉ですが、元々は仏教語であります。「畜生」という言葉を親鸞聖人はご自身が書かれた「教行信証」の中に

「無慙愧」は名づけて「人」とせす、名づけて「畜生」とす」と記されています。

「慙愧」とは、「広辞苑」によると、「恥じ入ること」と説明されていますが、「無慙愧」とは、恥じ入る心や人を傷つけて痛む心がさらさらないとを言い、そういう者のことを「畜生」というのだと教えて下さっています。

親鸞聖人は、私たちに自分自身の愚かさや気付かぬ、罪の深さに恥じ入る心をもって歩んで欲しい、と願っておられるのでしよう。

参考文献・大江憲成

『暮らしのなかの仏教語』(東本願寺出版)

## 編集後記

★令和二年という年は、コロナウイルスに始まりコロナウイルスで終わるという、普通の日常が奪われた記憶にも記録にも残る年ではなかったのではないのでしょうか。

ウイルスに関連したカタカナ用語「クラスター、オーバーシュート、ロックダウン、ソーシャルディスタンス等の言葉が毎日踊る日々が続いています。

★そんな非常の時に、我が世の春を謳歌していた安倍総理が病気を理由に二度目の途中退任となる政権放棄という道を選んだ。その後任にたたきあげの苦勞人、無派閥の菅義偉氏が、安倍政権の継承を旗印に圧倒的な支持を受け、第九十九代総理に選出された。

前政権の継承とはニューアンスは聞かぬがよいけど、負の遺産、森友・加計問題、桜を見る会、公文書改ざん、河井夫妻の公選法違反等の国民への説明責任を果たさず、ほうかむりを決め込むなら、新たな政府のキャッチフレーズ、「国民の為に働く内閣」とは給空事ではないのでしょうか。

世襲という上から目線を国民目線から物申すというスタンスを貫いて、今、日本の空を覆いつくしている暗雲を晴らしてくれる人を日本人は待ち望んでいます。

★今年の報恩講は、コロナ禍の影響で変則的な形で勤められますが、皆様、ご参詣下さい。(松島 守)